

2026 年 6 月 11 日作成 Ver.1.2

《情報公開文書》

炎症性腸疾患における血清中免疫複合体の網羅的解析研究

研究の概要

【背景】炎症性腸疾患（IBD）は世界的に増加傾向にある原因不明の慢性炎症性疾患であり、一般に潰瘍性大腸炎（UC）とクローン病（CD）の2疾患を指します。IBDの診断の遅延は疾患進行や予後の悪化と関連することが報告されています。さらに、現在の治療は炎症の制御にとどまり根本的な治療が確立されていないことや、治療反応が不十分であることも問題となっており、今後はIBDの病態のさらなる理解が不可欠です。

免疫複合体は抗原と抗体の結合により形成され、過剰な形成や沈着は炎症を増幅します。免疫複合体は多くの自己免疫疾患および炎症性疾患の病態形成に関与することが報告されています。これまでのIBDと免疫複合体に関する研究の多くは免疫複合体の存在や量を評価するにとどまり、IBDにおける免疫複合体の詳細な解析は十分に行われていません。

【目的】本研究の目的は、IBDに特徴的な免疫複合体の性質を明らかにすることです。具体的には、免疫複合体に含まれる抗原、量やサイズなどの違いにも着目し、疾患ごとにどのような特徴がみられるのかを総合的に解析し、病態に関わる分子や免疫反応の特徴を捉えることを目指します。

【意義】本研究で得られる知見は、IBDでどのような免疫反応が起きているのかを理解するうえで重要であり、病態の解明に直接つながる可能性があります。また、疾患に特徴的な抗原が同定できれば、病態形成に関わる分子の特定や新たな治療標的の探索にもつながり、将来的な個別化医療の発展に繋がる可能性があります。

【方法】前研究で得られた潰瘍性大腸炎、クローン病、健常人の免疫複合体に含まれる抗原タンパク質の網羅的解析データ、免疫複合体の量、サイズ、および臨床検査値を用いて、潰瘍性大腸炎やクローン病の病態を反映する新たな抗原候補や特徴的な免疫複合体の量やサイズ、構成成分を特定します。

対象となる患者さん

「自己免疫疾患における免疫複合体研究」（長崎大学病院臨床研究倫理委員会許可番号 24101007）の研究の対象となった瘍性大腸炎、クローン病の患者さん、健康な方

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

性別、年齢、発症年月または診断年月、病型、難治性、Mayo Score、Mayo endoscopic subscore、UCEIS、Histological Matts grade、症状、医師による全般的評価、検査所見（ESR、WBC、LRG）、治療情報（治療薬）

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。本研究で使用する情報は、個人を特定できないように匿名化されており、特定の個人を識別することはできません。そのため、この研究に使われたくないと申し出られた方を対象者から外すことができません。あらかじめご了承ください。	
研究実施期間	
研究機関長の許可日～2030年3月31日	
研究実施体制	
研究責任者	所属：長崎大学病院 薬剤部 氏名：大山 要 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095（819）7245
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	
【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】 長崎大学病院 薬剤部 大山 要 〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095（819）7245 FAX 095（819）7251	
【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200 受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）	